

衛生 鳥インフルエンザから 家庭で飼育している鳥を守りましょう

農政課 農政係 ☎(232)4916

鳥インフルエンザの発生しやすい季節になりました。ウイルスを運ぶ可能性のある野鳥などが近づかないように、侵入防止策をお願いします。

平成22年度の国内養鶏場での高病原性鳥インフルエンザは、9県24農場で発生し約183万羽が殺処分されました。野鳥でも16県で同じウイルスが確認されました。平成23年度は、幸いにも国内での発生はありませんでしたが、近隣諸国では現在も続発しています。

国内へのウイルスの持ち込みは、複数のルートで渡り鳥が運んできたことと推測されます。今年もその季節になったことから、より一層の侵入防止対策などの徹底が重要です。

鳥インフルエンザが発生したからといって、直ちに家庭などで飼育している鳥が感染するということはありません。ウイルスを運んでくる可能性のある野鳥などが近づかないように小屋には金網や防鳥ネット(2cm角以下)を張り、餌や水は小屋の中に置いて餌が小屋の周辺に散乱しないようにしましょう。飼育している鳥は毎日観察し、世話をした後は手洗いとうがいを忘れずに行いましょう。

原因が分からないまま、連続して死亡するなどの異常があればご連絡ください。また、ホームページなどを参考にし、正しい知識の習得をお願いします。



- 連絡先
- 家きん(鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥) 城北家畜保健衛生所 ☎0968(46)2075
 - 愛玩鳥(上記の家きん以外) 菊池保健所 衛生環境課 ☎0968(25)4135
 - 野鳥 菊池地域振興局 林務課 ☎0968(25)1039
- 参考ホームページ
- 城北家畜保健衛生所ホームページ
 - 農林水産省 鳥インフルエンザに関すること

健康 全教室合同による ヘルスアップセミナーを開催しました

健康・保険課 保健予防係 ☎(232)4912

自分の体と向き合い健康行動を起してみませんか

町では、生活習慣病を早期に予防するために、町の「特定健診」を受けた人を対象に健康づくり教室「ヘルスアップセミナー」を町内3教室で開催しています。

11月7日には、図書館ホールで軽運動を行いました。運動指導士によるストレッチやステップなど家でも手軽に継続できる有酸素運動を体験し、各自の現在の健康行動について語り合いました。明らかに行動に変化が見られ、健康意識が変わった人が多くみられました。



▲ストレッチやステップなどで体を動かす

インフルエンザ予防接種の助成は12月末で終了します

インフルエンザは、1月上旬から3月上旬にかけて流行します。ワクチンを接種して十分な効果を維持する期間は、接種してから約2週間後から約5カ月間とされています。流行シーズン前の12月までに接種しましょう。

※詳しくは「広報きくよう」10月号をご覧ください。

菊陽町地域包括支援センターは、高齢者の皆さんを支援します

町では、介護や健康・医療などさまざまな面から、地域で暮らす高齢者の皆さんを支えるための拠点として、地域包括支援センターを介護保険課内に設置しています。地域包括支援センターでは、保健師・社会福祉士・主任ケアマネージャーなどの専門職がチームになって、高齢者の皆さんを総合的に支援します。

■主な事業

- ①介護予防事業
寝たきりにならないように健康づくりや介護予防についての支援を行っています。
- ②包括的・継続的ケアマネジメント事業
地域のケアマネージャーへの指導・支援や、医療機関などの関係機関とのネットワークづくりに取り組んでいます。
- ③高齢者への虐待防止・権利擁護事業
高齢者虐待の早期発見、訪問販売や悪質な詐欺商法被害の未然防止などに努めています。
- ④総合相談事業
高齢者の相談や悩みに答えます。

その他、認知症サポーター養成講座や要支援者マネジメント、健康づくりのための介護予防生きがい・運動教室通所事業、見守りを兼ねて食事の配達を行う配食見守りネットワーク事業なども行っています(利用要件があります)。

▲いきいき健康教室(ふれあいの森研修センター)

■問い合わせ
介護保険課 介護予防係内 地域包括支援センター ☎(232)2366



健康 ノロウイルスによる 感染性胃腸炎に気をつけましょう

健康・保険課 保健予防係 ☎(232)4912

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、特に冬季に流行しやすい

感染性胃腸炎には、細菌・ウイルス・寄生虫などの病原体があります。ウイルス性の代表的なものにノロウイルスによる感染性胃腸炎があります。手指や食品などを介して口から感染し、人の腸管で増殖し、嘔吐・下痢・腹痛などを起こします。

抵抗力の低い幼児や高齢者などは重症化する場合がありますので、十分気をつけましょう。身近な人と一緒に、次の予防対策を徹底しましょう。

■患者の便や吐ぶつには大量のウイルスが排出されます。

①食事の前やトイレの後などには、

不活化ポリオワクチンの1期追加接種(4回目)が 定期予防接種の対象になりました

開始時点では、定期予防接種の対象外であった、不活化ポリオワクチン1期追加(4回目接種)が、10月23日から新たに定期予防接種の対象になりました。

- 必ず手を洗いましょう。
- ②下痢や嘔吐などの症状がある人は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
 - ③胃腸炎患者に接する人は、患者の便や吐ぶつは適切な処理をし、感染を広げないようにしましょう。(ビニール袋などに入れる)。
- 肉や魚などは、できるだけ中心部までしっかりと加熱しましょう。生食をする場合は、低温処理など適切な処理をして食べましょう。
- ノロウイルスにはワクチンがなく、治療は輸液などの対症療法に限られます。症状が回復しない場合は、医療機関に相談しましょう。